

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

建学の精神に則り、未来を生き抜くことができる資質・能力を培い、社会に貢献する自立した女性を育てる学校をめざす。本校では、「社会に貢献する自立した女性」を育成するために必要な資質・能力を、学力・協働性・主体性の3つと考える。この3つの資質・能力を構成する、『学ぶ力、考える力、解く力、認め合う力、行動する力 (KINRAN PRIDE)』を全ての教育活動を通じて育成する。

(1) 学力

- ① 学ぶ力=生涯にわたり絶えず学び続けようとする意欲・姿勢
- ② 考える力=習得した基礎的・基本的な知識・技能を、社会における様々な場面で活用できる力
- ③ 解く力=習得した知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果を獲得するとともに、その成果を発信する力

(2) 協働性

認め合う力=「ありのままの自分」を認め、他者の多様な個性や価値観、文化を理解し互いを尊重し人間関係をつくる力

(3) 主体性

行動する力=自らの役割を把握し、その役割を果たすため、自リツ(自立・自律)的に行動する力

2 中期的目標

(1) 学校教育デザインの確立

① 学校教育デザインの具体化

全ての教職員は、「これからの社会に貢献する自立した女性」を育成する学校教育デザイン(めざす学校像・生徒に育みたい力)を具体化、共有化し、生徒・保護者に発信するとともに、日々の教育活動を見直し、生徒指導、学習指導を改善する。

② 「5つの力」の育成を実現する魅力的な学校づくりの推進

ア) グローバル人材の育成と近年強化していた英語教育の取り組みを活かした国際理解(GS)コースを設置する。

イ) 学校教育デザイン(めざす学校像・生徒に育みたい力)に向けて現コースの成果と課題を検証し、コースのカリキュラム改編を含めコースの再編を検討する。

ウ) 中学部においても、その成果と課題を検証し、円滑な中高接続ができるように、カリキュラム改編を含め中学部の充実を図る。

(2) 学力の向上

① 学力向上策(基礎学力・学習習慣定着策)の実施

ア) 教職員は自ら「学ぶこと」の重要性を理解し、それに基づいて教育活動を行う。

イ) 多様な生き方を自分で判断し選択できる女性を育成するために、教職員は生徒に対して、「学ぶこと」の意味を理解させ、「学ぶ意欲」を喚起することで「自己効力感」を持たせる。あわせて、授業規律の確立、ICTの活用などで家庭学習の定着を図ることで、基礎学力の充実を図る。

② 授業力の向上

教職員の授業力向上を図ることで、すべての教科において、アクティブ・ラーニングを推進し、基礎的な知識や技能を活用し、論理的に考え、まとめ、発表する力を育成する。

③ 「総合的な探究の時間」のプログラムの確立

「総合的な探究の時間」(高校)・「総合的な学習の時間」(中学)のプログラムを確立するなかで、多様な人々・文化の出会いを通じて、コミュニケーション力、課題設定・課題解決能力を育成する。

(3) 進学実績の向上

① 3年間・6年間を見通した進路指導体制の確立

ア) 進路指導部は、各学年・教務部と連携し実力テストや模試等の客観的なデータを活用し、高校3年間を見通した進路指導体制を確立し、これからの社会で自立して生きていくために必要とされる、進路意識の醸成としっかりとした学力を育成する。

イ) 中学部は進路指導部と連携し、中高連携を図り、高校進学を含めた6年間を進路意識の醸成としっかりとした学力を育成する。

② キャリア教育の推進

これからの社会に貢献する自立した女性を育成するため、各コースは、金蘭会の強みである教育的リソース(大学、保育園、病院等)を活用したキャリアプログラムを確立し、社会で求められる女性の生き方、働き方を考える、3年間・6年間を見通したキャリア教育プログラムを策定する。

③ 千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携

千里金蘭大学とのより効果的で密接な連携により、内部進学者を増加させる。

(4) 安全安心な学校づくりと自立・自律する力の育成

① 人間関係づくりの充実

各学年が、HRや道徳、学校行事等を通じて、生徒一人ひとりが多様な生き方を自分で判断し選択できる女性に必要とされる、自分のすばらしさを認め他者を尊重し受け入れる豊かな心を育み、多様性を尊重し共生する力、自立・自律する力を育成する。

② 生徒の主体性の育成

生徒指導部は、生徒指導方針や学校行事の目的・意義を再確認し、多様な生き方を自分で判断し選択できる女性に必要とされる主体的に考え行動する力を育成する。

③ 支援が必要とされる生徒への対応

ア) すべての教職員は、「支援」という観点で日々の教育活動を見直す。

イ) 生徒支援委員会は各学年と連携して、発達特性や不登校傾向生徒への支援策を検討し実施する。あわせて、スクールカウンセラーだけでなく、外部の医療機関等との連携も強化する。

(5) 魅力的な学校づくりと機能的な学校運営の確立

① 募集広報活動の強化と体制の充実

本校がめざす新たな教育の魅力を全面的にアピールするため、保護者や受験希望者、中学校や塾等のニーズを把握し、評価と分析を徹底し効果的で効果的な募集広報戦略を立てる。

② PDCAサイクルの徹底

各分掌・学年は、具体的なデータや根拠に基づいた総括や評価を徹底し、課題と方針を明確にするPDCAサイクルを確立する。。

③ 組織運営体制の充実と教師力の向上

機能的な組織運営を図るため、職務の役割と責任を自覚する。計画的な人事計画のもと、適切な教員配置を実現する。また、外部教育機関等との連携を深め、教職員のスキルアップを図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>(1) 学校教育デザインの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校の教育活動について、保護者や生徒は総体として満足をしている。 「入学して良かった。」(保護者 92)・(生徒 91) <p>(2) 学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ●授業改善研修を系統的に取り組んだが、保護者・生徒の授業満足度は低く、教員の授業改善へ取り組みが、全体的な取り組みになっておらず、生徒とニーズとのギャップがある。 「授業がわかりやすく楽しい」(保 59)・(生 68)・(教 85) 「授業での教材や授業方法の工夫・改善に努めている。」(保 73)・(生 64) 「参加体験型など、指導方法の工夫・改善を行っている」(生 45)・(教 82) 「自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」(生 68)・(教員 63) ●家庭学習の定着、到達度の低い生徒への学習指導も、評価が依然低い。全校的な取り組みになっておらず、習熟度別指導や学び直し(リメディアル)などの取り組みを早急に実施する必要がある。 「継続した家庭学習ができるようにしている。」(保 73)・(生 62)・(教 63) 「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。」(生 66) 「到達度の低い生徒に対する指導を全校的課題として取り組んでいる。」(教 25) <p>(3) 安全安心な学校づくりと自立・自律する力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生徒指導について、生徒層の変化に対応して指導の必要性・教育的意義を改めて議論し、保護者・生徒と共有化を図る必要である。 「学校の生徒指導の方針に、共感・納得できる。」(保 78)・(生 66) 「生徒指導において、家庭との連携ができています。」(教 85) 「問題行動に対して、学校全体で組織的に対応できる体制が整っている。」(教 63) ●コロナ禍で主だった学校行事が中止もしくは大幅な変更の影響で評価は下がっているが、生徒の意見が十分反映できなかった点の影響も大きい。学校行事について、生徒自治会中心に生徒主体の運営体制に移行する必要がある。 「学校行事は、積極的に参加できるよう工夫されている。」(保 82)・(生 75)・(教 74) 「生徒自治会活動は、自主的で活発である。」(保 63)・(生 66)・(教 59) ●人間関係づくり、自尊感情の育成に対する取り組みが不十分であった。人間関係トレーニングなど HR 計画の見直しが必要である。その中で中学の評価が高く、道徳の実践に学ぶ必要がある。 「人権について学ぶ機会がある。」(保 74)・(生 64)・(教 56) 「人権が尊重され安心できる環境づくりをしている。」(保 73)・(生 71)・(教 85) ●生徒支援委員会を中心とした支援体制について評価を受けている。ただ、人間関係の問題への対応など、生徒からの評価はまだ低く、相談等で明らかになった課題に対する支援体制や、教員個々のスキルに不十分な点があり、生徒が安心できる環境整備と、教員のスキルアップを図る必要である。 「保護者の相談に適切に応じてくれる。」(保 86)・(生 71)・(教 74) 「いじめについて真剣に対応してくれる。」(保 78)・(生 70)・(教 78) 「教育相談体制が整備され、担任以外とも相談できる。」(保 77)・(生 60)・(教 89) <p>(4) 進学実績の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ●キャリア教育(生き方を考え、職業観を育成する取り組み)が不十分であり、中学におけるキャリア教育の充実を含め、6年間を通じた系統的な実践が必要である。 「将来の進路や職業について考える機会がある。」(保 78)・(生 78)・(教 56) 「自分の生き方や将来を考えるように工夫されている。」(保 76)・(生 62)・(教 74) ●進路指導体制について、情報提供も含め、一貫した丁寧な指導が不十分であった。また、従来の進路行事が生徒に対して目的・意義を見直し、3年間見通した指導方針の確立が必要である。 「進路指導面できめ細かい指導を行っている。」(保 69)・(生 74)・(教 70) 「錬成授業(講座)・模試など取り組みを十分にしている。」(保 85)・(生 71)・(教 70) ●系列大学・保育園との連携、他大学・機関との連携はコロナ禍の状況で十分実施できなかった。 「地域の幼稚園、大学や病院などと交流する機会がある。」(保 70)・(生 52)・(教 85) 「系列大学・保育園との連携は、進路選択に役立っている。」(保 64)・(生 52)・(教 89) <p>(5) 魅力的な学校づくりと機能的な学校運営の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今年度、コロナ禍の臨時休校でより保護者との連携が重要となった。メールを利用した情報発信が評価されている。ただ、保護者との双方向の連携体制を確立しなければならない。また、ホームページが情報提供手段として十分活用できていない。ホームページのリニューアルを契機に活用しなければならない。 「学校のホームページをよく見る。」(保 46)・(生 26)・(教 89) 「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。」(教 78) ●学校経営計画が明確に示され、教員にも徐々に浸透している。本人の適性・能力、意向に配慮した教員配置を行った結果、教員個々が本校の抱える教育課題に取り組むこ 	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆今年度の目標についてこれまでの実施について (委員)今年度の目標についてこれまでの状況について教えてほしい。 (学校)令和2年度は異例の年でもあり次年度にむけコースの見直しを行う基盤となる5つ教育力(KINRANPRIDE)全て教育活動を通じて育成していくように取り組みを進めている。と報告があった。 ◆新しいカリキュラムについて (委員)来年度につけて新しいコース等が設置された具体的にはどうか。 (学校)新コースのGSについては、GCSCやAWなどの新しいコース独自の科目を設置し、目標であるグローバルシティズンシップ教育を進め、他のコースも土曜日に各コースの特徴的な授業を検討し構成し基礎の力をつけていきたい。 ◆臨時休校中の取り組みについて (委員)長期にわたる臨時休校中の学習支援はどうなっていたのか。 (学校)5月末までコロナでの休校は初めてのことであり対応に追われ課題発送等教員の負担がかかりすぎてしまったが、11月の本校にてコロナのり患者の休校では課題やリモート対応など軽減することができた。しかし、対面の重要性など環境の大切さについても考えなければならぬ。 (委員)コロナ禍における子どもの『心』が気になる、本校での取り組みなどで、どのような支援がなされているのか。 (学校)集団が苦手は生徒も入学している。その為保護者も含めたカウンセリングをされている。担任の先生より、斜めの関係であるSC(スクールカウンセラー)の対応がよりよい情報を得られている。本来なら1学期に起こりうる事案も2学期に起こっている事案が多々あるがSC・養護教諭・学年・担任と連携がとれている為サポートができています。 ◆キャリア教育について (委員)本校卒業生は、女性が自立できる経験などキャリア教育にも役立てることができる。同窓会としても、キャリア教育についても経験もいかせて貢献した。 <p>第2回</p> <p>○令和2年度学校経営計画及び学校評価について</p> <p>[学校より説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学力の向上について <ul style="list-style-type: none"> ●外部講師により数回の授業改善研修を実施、授業向上を図りアクティブ・ラーニングを推進し実践。 ●一定の評価をいただいているが、到達度が低い生徒への対応が十分でないことから二極化学習到達度が低い生徒に対しリメディアル教育(学びなおし)を行う次年度より予定 ◆進路実績について <ul style="list-style-type: none"> ●3年間を見通した進路指導の結果、系列校への受験を含め、一般入試へチャレンジする生徒が増加 ●次年度以降、『総合的な探究の時間』の活用を含めキャリア教育に力を入れる ◆生徒指導について <ul style="list-style-type: none"> ●学校行事における生徒主体の運営に移行する必要がある ●生徒層の変化がみられ人間関係の不得意な生徒が増加し、その対応に課題 ●外部機関(医療機関)や出身中学の教員との連携を強化 ◆広報活動について <ul style="list-style-type: none"> ●今年度より、Webページのリニューアル、パンフレットの改良(見やすさ・わかりやすさ・速さ)に取り組む <p>[質疑]</p> <p>(委員)看護・保育・栄養と先を見据えて入学される方もいけば、目的がなく、実際に何がしたいかわからない生徒もいるため、早くから将来に対して学んだり考えたりする機会をもって頂きたい。 (委員)実際、自分の子どもでも公立と私立での差を感じている。進路を考え決めていくための道筋が必要であると感じている。 (委員)早めの勉強に取り組むなど保護者の意識の一体化も必要である。 (委員)キャリア教育を推進するうえで目的がない生徒でも、興味・関心や個性など、それぞれの生徒に応じた細かな進路指導が必要ではないか。 (委員)「実際、具体的な将来像が不明な生徒に対して、先がみえるような身近な方々が(同窓生)支援できれば」と同窓会として考えている。 (学校)日本における男女平等の差が世界的にワーストである為早い段階から女性の自立に力を入れる。そのためには、ロールモデルを見ることを中心にしっかり学んでもらうことが必要と考えている。</p>

<p>とができている。ただ、学年主任・分掌長等のリーダーとしての役割を強化する必要がある。</p> <p>「校長は、自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。」(教96)</p> <p>「適性・能力に応じた役割分担がなされ、意欲的に取り組める環境にある。」(教63)</p> <p>「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」(教48)</p> <p>「職員会議などが、教職員間の意思疎通や意見交換の場として機能している。」(教52)</p> <p>「会議の内容が、教育活動や学校運営に生かされている。」(教48)</p> <p>●今年度は、授業改善、生徒指導(学校におけるハラスメント・思春期の生徒とのかかわり方)など、直面する課題に対応した研修を実施した結果が出ている。一方、初任者や若手教員の育成が不十分である。校内研修の充実だけでなく、外部研修の活用等が必要である。</p> <p>「計画的に研修が実施され、教育実践に役立つような内容となっている。」(教63)</p> <p>「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている。」(教26)</p> <p>「教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。」(教33)</p> <p>●臨時休校時においては、不十分ながら急遽の対応として保護者・生徒も納得していたが、本校のオンライン授業の体制整備の遅れが明確に示されている。多様なコンテンツのなかで、本校に適した双方向性のある体制の確立が必要である。</p> <p>「臨時休校中について、実施方法や課題等は十分であった。」(保65)・(生70)・(教70)</p> <p>「11月の休校時のオンライン授業は、満足いくものであった。」(保52)・(生54)・(教70)</p>	
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学校教育デザインの確立	I 学校教育デザインの具体化	a. すべての教科・学年・分掌は、生徒実態を把握するとともに、「5つの力」(KINRAN PRIDE)を育成するため、年間目標と年間指導計画を具体化し、共有化を図る。	●アンケート「満足度」 (保護者)90% [85%(2019)] (生徒)90% [88%(2019)] (教員)70% [48%(2019)]	I ●「満足度」(保護者)92% (生徒)91% ●「特色ある教育活動」(保護者)84% (生徒)78% ●「教育方針の明示」(保護者)76% *保護者・生徒について、学校の教育活動について、保護者や生徒は総体として満足をしている。 II ●「満足度」(教員)59% ●「特色ある教育活動」(教員)52% *「5つの力」(KINRAN PRIDE)の育成を実現するため、GSコースの新設と他コースの改編(カリキュラムの見直し)を実施した。 *カリキュラム改編に際して、新設したコース長が大きな役割を果たしたが、過程での双方向性は不十分であったため、共有化が遅れた。
	II 「5つの力」の育成を実現する魅力的な学校づくりの推進	a. すべての教職員は、生徒の「5つの力」(KINRAN PRIDE)を育成するため、自らの学習指導と生徒指導の方針を明確にする。 b. すべてのコースと教務部は連携して、コースの課題、カリキュラムの課題を明確化し、「5つの力」を育成するため新たなカリキュラムを検討する。	●アンケート「特色ある教育活動」 (保護者)75% [69%(2019)] (生徒)75% [72%(2019)] (教員)70% [37%(2019)] ●アンケート「教育方針の明示」 (保護者)70% [63%(2019)]	
2 学力の向上	I 学力向上策(基礎学力・学習習慣定着策)の実施	a. 教務部主導で、すべての教科は、「何ができるようになるか」という観点で、「指導と評価の年間計画(シラバス)」を見直し、評価方法(評価基準・考査問題等)も含めて、年間指導方針の統一と共有を図る。 b. すべての教職員は年間指導方針に基づいて、授業改善に努める。 c. すべての教職員は授業規律の徹底を図り、生徒の振り返り(アンケート)を実施し、生徒の学習状況を把握することで、授業改善を行う。 d. 各学年は、今年度より学力向上担当を置き、学年進路、教科担当者と連携を図り、学力中間層(B3層～C層)の学力向上を図る。 e. 教務部は各分掌、学年と連携し、その目的やねらいを明確化し、学校行事を精査する。また、授業時数は確保する。	I ●アンケート「授業満足度」 (保護者)70% [55%(2019)] (生徒)70% [63%(2019)] ●アンケート「授業改善」 (保護者)70% [59%(2019)] (生徒)70% [61%(2019)] (教員)85% [79%(2019)] ●アンケート「参加体験型」 (生徒)60% [48%(2019)] (教員)70% [62%(2019)] ●アンケート「考えをまとめ発表」 (生徒)70% [57%(2019)] (教員)60% [48%(2019)] ●アンケート「習熟度別指導」 (生徒)70% [61%(2019)] (教員)50% [31%(2019)] ●アンケート「家庭学習定着」 (保護者)70% [62%(2019)] (生徒)70% [49%(2019)] (教員)60% [45%(2019)]	I ●「授業満足度」(保護者)59% (生徒)68% ●「授業改善」(保護者)73% (生徒)64% (教員)85% ●「参加体験型」(生徒)45% (教員)82% ●「考えをまとめ発表」(生徒)68% (教員)63% ●「習熟度別指導」(生徒)66% (教員)26% ●「家庭学習定着」(保護者)73% (生徒)62% (教員)63% *臨時休校によって、授業の在り方(オンライン授業を含め)、評価方法の課題が明確化した。シラバスを見直し、年間指導方針の統一と共有が必要 *研修を取り組んだ結果、数値は改善しているが全体的な広がりには不十分 *生徒の実態(学力の2極化)に対応できず、受動的な授業も存在し、生徒とニーズとのギャップがある。特にこの傾向は高校で強い。 *一部の教科(中学数学科)など家庭学習の定着、到達度の低い生徒への学習指導が実施された。 *次年度実施予定の習熟度別指導や学び直し(リメディアル)などの取り組みを早急に必要な
	II 授業力の向上	a. 教務部を中心に、授業力向上委員会を組織し、研修、研究授業週間を実施する。 b. すべての授業、教科は授業アンケート、自己診断アンケートに基づいて、年間総括と次年度に向けた改善計画を作成する。	II ●授業公開と研究協議会の開催 ●外部講師による研修	II ●授業改善に向けた教職員研修(講師：授業改善アドバイザー 小林 昭文先生)7/31(金)・9/24(木)実施 ●授業参観と研究協議会 9/23(水)・9/24(木)実施 *「主体的・対話的で深い学び」にむけ、「学びの質」を向上させるために、基本的な考え方を学び、教員個々の授業改善に向けた取り組みが行われた。 *理論として理解できても、実践に移すためのロールモデルを示し、有志によるプロジェクトチームのような組織化が不十分であった。
	III 「総合的な探究の時間」のプログラムの確立	a. 教務部を中心に、探究プロジェクトチームを設置し、学び力、考える力、解く力を育成するため、本校の成果等を精査し、プログラム化を図る。また、先進実践校訪問や教職員研修を実施する。		III *3月教務部と新1年が主体となる探究プロジェクトチームを設置

<p>3 進路実績の向上</p>	<p>I 3年間を見通した進路指導体制の確立</p> <p>II キャリア教育の推進</p> <p>III 千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携</p>	<p>a. 進路指導部は、早期に進路指導計画を明確化する。</p> <p>b. 実力テスト、結果分析会、面談、休業中の補習等の進路行事を有機的に活用する。</p> <p>c. 各担任は、実力テストの結果や学年の進路指導方針に基づいて、面談を通じて生徒一人ひとりに対して、学習目標や進路目標を明確に示した指導を行う。</p> <p>d. そのためにすべての教職員は、進路情報の共有と進路指導のスキルの向上を図り、一般入試まで頑張りという意識を生徒に醸成する。</p> <p>a. 進路指導部は、特に高校1年より進路意識を育成するため、「自分の進路(職業)を考える」取り組みを実施する。職業適性検査(R-CAP等)や職業人インタビュー・職場訪問、大学見学などの導入を検討する。</p> <p>b. 進路指導部は、大学入試制度について早期に研修を行い、学校推薦入試(AO入試・指定校推薦)の方針案を決定し生徒・保護者に周知する。</p> <p>c. 看護医療コース・保育児童コースは、現在実施しているプログラムの充実を図る。</p> <p>d. 他コースにおいても、進路指導部や学年及び大学等とも連携を図りキャリアプログラムを検討する。</p> <p>進路指導部は、高校1年より大学スタッフによる進路ガイダンスを実施する。また、学部別説明会や進路相談会を各学年で実施する。</p>	<p>I ●アンケート「進路指導(連携)」(保護者)70%[62%(2019)] (生徒)70% [59%(2019)] (教員)50%[35%(2019)]</p> <p>●アンケート「進路指導(取り組み)」(保護者)85% [80%(2019)] (生徒)70% [65%(2019)] (教員)70%[51%(2019)]</p> <p>II ●アンケート「キャリア教育」(保護者)80% [74%(2019)] (生徒)75% [69%(2019)] (教員)50% [24%(2019)]</p> <p>●アンケート「生き方・将来を考える」(保護者)75% [67%(2019)] (生徒)65% [51%(2019)] (教員)50% [38%(2019)]</p> <p>III ●アンケート「大学等との連携」(保護者)70% [60%(2019)] (生徒)55% [44%(2019)] (教員)65% [55%(2019)]</p> <p>●千里金蘭大学説明会実施回数</p> <p>●千里金蘭大学への内部進学者15%以上[24名、12%(2019年度)]</p>	<p>I ●「進路指導(連携)」(保護者)68% (生徒)74% (教員)70%</p> <p>●「進路指導(取り組み)」(保護者)85% (生徒)71% (教員)70%</p> <p>*勉強マラソンの実施など、継続的な指導により生徒の進路意識の育成が実を結び、結果を納めた[千里金蘭大学29名・関西系女子大11名・関関同立12名、産近甲龍8名]。</p> <p>*実力テスト・模試の実施回数を精選した。また、結果分析会を実施し、データの活用に取り組んだが、学力育成の面での模試の外部指標としての活用が必要。</p> <p>*錬成学習(1年次、2年次前半)の目的・意義の徹底が不十分</p> <p>*全体的に進路実現に向け、生徒の学力充実の方策についての議論が不足し、各学年や教務部、募集広報部との連携強化が必要</p> <p>*保護者への情報提供も含め、進路指導方針の説明が不足し、保護者の意識改革を含めた進路指導が不十分。</p> <p>II ●「キャリア教育」(保護者)78% (生徒)78% (教員)56%</p> <p>●「生き方・将来を考える」(保護者)76% (生徒)62% (教員)74%</p> <p>*大学見学会、「医療看護プログラム」(3月実施)など、進路行事がコロナ禍の影響で実施できなかった。</p> <p>*キャリア教育(生き方・、職業観を育成する取り組み)が系統的に計画する必要。</p> <p>*中学におけるキャリア教育の充実を含め、6年間を通じた体系的な実践が必要。</p> <p>III ●「大学等との連携」(保護者)64% (生徒)52%(教員)89%</p> <p>●千里金蘭大学への内部進学者29名、19%</p> <p>*実施可能な形ではあったが千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携の成果が出ている。</p>
<p>4 安全安心な学校づくり・自立・自律能力の育成</p>	<p>I 人間関係づくりの充実</p> <p>II 生徒の主体性の育成</p> <p>III 支援が必要とされる生徒への対応</p>	<p>a. すべての教職員は、集団づくりの観点で、生徒と寄り添い、生徒理解を深める。</p> <p>b. 各学年は、特に「人間関係をうまく構築できない生徒」、「感情をコントロールできない生徒」に対する課題解決策として、人間関係トレーニングなどの実践を検討する。</p> <p>c. 各学年は、核となる学年行事(修学旅行等)を決め、生徒実行委員会を組織し、生徒が主体となって企画運営できる機会を設ける。</p> <p>a. 生徒指導部は、生徒指導方針の在り方について議論を徹底し今年度中に教職員間の共有化を図る。</p> <p>b. 生徒指導部自治会課は、「体育祭」・「蘭祭」・「校内競技大会」を生徒主体の学校行事に移行する。運営におけるサポートは、自治会課が行う。</p> <p>a. 各学年は、生徒情報を整理して、配慮・支援を要する生徒のリストアップを図り、絶えず観察を続け学年会議で状況と情報を共有する。</p> <p>b. 生徒支援委員会は、情報を集約し、支援策の必要と具体案を学年に提案するとともに、校務連絡会に報告し情報と支援策の共有化を図る。</p>	<p>I ●アンケート「人権教育」(保護者)75% [67%(2019)] (生徒)70% [56%(2019)] (教員)60% [28%(2019)]</p> <p>●アンケート「安心安全な環境」(保護者)75% [66%(2019)] (生徒)75% [65%(2019)] (教員)70% [45%(2019)]</p> <p>II ●アンケート「生徒指導方針」(保護者)75%[68%(2019)] (生徒)70% [60%(2019)] (教員)60% [45%(2019)]</p> <p>●アンケート「方針への共感」(保護者)70% [60%(2019)] (生徒)65% [55%(2019)] (教員)60% [51%(2019)]</p> <p>●アンケート「学校行事」(保護者)85% [82%(2019)] (生徒)80% [75%(2019)] (教員)70% [59%(2019)]</p> <p>●アンケート「生徒自治会活動」(保護者)70% [63%(2019)] (生徒)70% [65%(2019)] (教員)60% [35%(2019)]</p> <p>III ●アンケート「いじめへの対応」(保護者)75% [70%(2019)] (生徒)70% [62%(2019)] (教員)60% [45%(2019)]</p> <p>●アンケート「教育相談体制」(保護者)80% [74%(2019)] (生徒)60% [47%(2019)] (教員)60% [45%(2019)]</p>	<p>I ●「人権教育」(保護者)74% (生徒)64% (教員)56%</p> <p>●「安心安全な環境」(保護者)74% (生徒)71% (教員)85%</p> <p>*人間関係づくり、自己肯定感の育成に向けた取り組みが不十分であった。結果として、指導が後手に回る場合もあった。</p> <p>*中3の修学旅行で長島愛生園の訪問(ハンセン病患者の方との交流)を実施した。多様な人との出会いの中で自分の生き方を学ぶ道徳の実践に学ぶ必要がある。</p> <p>*各学年と生徒指導部が連携し、早急にHR計画を見直し、人間関係トレーニングなどを検討する必要がある。</p> <p>II ●「生徒指導方針」(保護者)75% (生徒)73% (教員)63%</p> <p>●「方針への共感」(保護者)66% (生徒)66% (教員)85%</p> <p>●「学校行事」(保護者)82% (生徒)75%(×) (教員)74%</p> <p>●「生徒自治会活動」(保護者)66% (生徒)66% (教員)59%</p> <p>*遅刻の年間総数も2年連続減少するなど、従来の生活指導(服装・頭髪・遅刻)は一定成果を収めている。</p> <p>*生徒状況の変化に対応しての取り組みが遅れることもあり、「なぜ必要なのか」を考える、生徒の内面に迫る(人権教育の観点に立った)厳しい生徒指導が必要。</p> <p>*指導方針について、分掌内、分掌と学年間など相互の連携も十分にはとれず、一致した指導が不十分。</p> <p>*学校行事が大幅な変更があったが、工夫して実施することができた。</p> <p>*学校行事運営の当事者として、生徒自治会を中心とした生徒主体の運営体制に移行する必要がある。</p> <p>III ●「いじめへの対応」(保護者)78% (生徒)70% (教員)78%</p> <p>●「教育相談体制」(保護者)77% (生徒)60% (教員)89%</p> <p>*生徒支援委員会を定期的に開催し、支援の必要な生徒の情報か全職員で共有化できる体制が確立。</p> <p>*支援が必要な生徒について、年度当初より外部機関(病院等)だけでなく、出身中学校(4校)と連携を進めた。</p> <p>*不登校傾向の生徒の具体的な支援策として登校ルームを設置。</p> <p>*いじめ等人間関係の問題への対応など、また教員個人の対応になり、解決に時間を要する面がある。</p> <p>*不登校生徒の学習保障など生徒が安心できる環境整備と、教員のスキルアップを図る必要。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">5つの目標を達成するための取り組み</p>	<p>I 募集広報活動の強化と体制の充実</p>	<p>a. すべての教職員が本校の特長や育成をめざす「5つの力」（具体的にはカリキュラム）をわかりやすく伝えられるようにする。</p> <p>b. 募集広報部は、本校の教育方針、高校の各コースの特長を前面に出し、その特徴をわかりやすく伝えるパンフレットやホームページ、生徒・保護者対象の進学ガイダンスを改善する。</p>	<p>I ●中学校オープンスクール参加数 各回 50 組以上</p> <p>●中学校入試説明会参加数 各回 50 組以上</p> <p>●高校オープンスクール参加数 各回 100 組以上</p> <p>●高校入試説明会参加数 各回 100 組以上</p>	<p>I ○中学校</p> <p>●オープンスクール参加数(組) 第2回23[14]、第3回22[25] 計45[39]</p> <p>●入試説明会参加数(組) 第1回16[9]、第2回23[9]、第3回12[26]、第4回8[27]、第5回15[-] 計58[62]</p> <p>○高校</p> <p>●オープンスクール参加数 第1回97[53]、第2回74[54]、第3回80[45] 計45[39]</p> <p>●入試説明会参加数 第1回35[60]、第2回52[68]、第3回57組[45] 計144[175](×)</p> <p>*広報イベント参加者数は去年なみであったが、参加者の受験率・入学率が前年度より低下した[中・オープンスクール 38[49] 入試説明会 60[61]、高・オープンスクール26[43] 入試説明会69[66]]</p> <p>*生徒ボランティアスタッフの活用、オンラインイベント(OS オンライン+YouTubeでの動画公開)の実施、パンフレットやホームページの見直し、分かりやすく一体感のある広報イベントの改善を行った。</p> <p>*全教員による広報活動は不十分で、アピールできる教育内容を十分伝えることができなかった。</p> <p>*従来の広報陣営を全面的に見直し、戦略的な広報活動を行う組織が必要である。</p>
	<p>II PDCA サイクルの徹底</p>	<p>a. すべての教職員は授業アンケート結果をもとに具体的に授業改善を行う。その際に、授業の改善点は必ず生徒に説明する。また、具体的な内容は、「授業改善報告書」にまとめる。</p> <p>b. 各分掌・学年・教科は、自己診断アンケート結果を分析し客観的に年度総括を行う。次年度の方針については、自己診断アンケート項目を活用して、具体的な目標を設定する。</p>	<p>II ●学校運営協議会の実施</p> <p>●自己評価アンケート結果と学校運営協議会評価のホームページ公開</p>	<p>II</p> <p>*学校運営協議会を2回実施した</p> <p>※自己評価アンケート(12月)の結果を学校運営協議会(3月)に報告。</p>
	<p>III 組織運営体制の充実と教師力の向上</p>	<p>a. 本校の教育課題解決のため、各分掌長、主任等は、その役割を整理し計画化したうえで、機能的な組織運営を主体的に実行する。</p> <p>b. 各分掌長、主任等は、継続的に取り組む課題については、必ず引き継ぎを行う。</p> <p>c. 今年度も本校の教育課題解決のため、年内に適正な学年配置・分掌配置を決定する。年齢や教科バランス、本人の希望、を考慮して配置する。</p> <p>d. 直面する教育課題（ALによる授業改善、総合的な探究の時間の実践、生徒教職員間のセクハラ・パワハラ、LGBTなど）に対応する実践的な教職員研修を実施する。</p>	<p>III ●教職員研修の実施</p> <p>●若手対象教職員研修の実施回数</p> <p>●教職員アンケート</p> <p>「校長のリーダーシップ」90% [83% (2019)]</p> <p>「校内人事」60% [28%(2019)]</p> <p>「教員間連携」60% [35%(2019)]</p> <p>「会議運営」60% [41%(2019)]</p> <p>「計画的な研修」60% [38% (2019)]</p> <p>「若手教職員の育成」60% [24% (2019)]</p> <p>「校外研修」60% [31%(2019)]</p>	<p>III ●教職員アンケート 「校長のリーダーシップ」96% 「校内人事」63%</p> <p>●教職員アンケート 「教員間連携」48% 「会議運営」52%</p> <p>●教職員アンケート 「計画的な研修」63% 「若手の育成」26% 「校外研修」33%</p> <p>●「授業改善研修」[7/31、9/23・24] 「生徒指導研修(学校におけるハラスメント)[8/20]、 「生徒指導研修(思春期の生徒とのかかわり方)」[1/21]</p> <p>*校長の学校経営方針のもと、本人の適性・能力、意向に配慮した教員配置を行った結果、教員個々が本校の抱える教育課題に取り組みことができている。</p> <p>*コース長会議が組織的に運営され、新カリキュラム編成については、リーダー的な役割を果たした。</p> <p>*教員個々の取り組みが孤立する傾向にあり、学年間、学年・分掌間・分掌間の連携がうまくいかず、主任・分掌長のリーダーシップの発揮が不十分であった。</p> <p>*今年度は直面する課題について、学識経験者等の招いた研修を実施した。</p> <p>*系統的・組織的な教員育成体制(計画的研修(校内研修・外部研修)の実施が必要。</p>